

## 人形峠環境技術センターが保有する通信手段について

### 1. 経緯

前回の面談（令和 4 年 10 月 28 日実施）において、人形峠環境技術センター（以下、「人形峠」という。）における統合原子力防災ネットワーク設備（以下、「統合防災 NW」という。）は法的要求がないことから、衛星回線については、衛星回線サービスの更新に合わせて令和 5 年 12 月末をもって運用終了とすることについてご説明した。その際、衛星回線に代わる通信手段について説明を求められた。

今回、衛星回線廃止後における人形峠が保有する通信手段について整理したので、以下のとおり報告する。

### 2. 人形峠が保有する通信手段

人形峠の統合防災 NW の地上回線（TV 会議システム、IP 電話、IP-FAX）については、当面運用を継続し、人形峠－機構本部（即応センター）－原子力規制庁（ERC）間の情報共有に供する。これらに障害が発生した場合には、以下に示す通信手段を用いて、(1)機構内及び(2)機構外との情報共有を維持する。

#### (1)機構内との情報共有

人形峠－機構本部間の情報共有は、機構 TV 会議システム（専用回線）を用いることを基本とする。更に必要に応じて又は機構 TV 会議システムの使用が困難となった場合は以下の設備を活用する。

- ・ 携帯電話（原子力防災資機材）
- ・ 緊急時電話回線（原子力防災資機材）
- ・ 衛星携帯電話/ワイドスターII

#### (2)機構外との情報共有

ERC に対しては、上記(1)のとおり人形峠から機構本部へ情報共有した上で、機構本部から統合防災 NW の衛星回線（TV 会議システム、IP 電話、IP-FAX）を用いる。また、人形峠から関係機関（ERC 含む）への通報連絡は、一斉 FAX（原子力防災資機材、一般回線）による通報連絡を基本とし、使用が困難となった場合は以下の優先順位に従い対応する。

優先順位 1：人形峠内の別の FAX：一般回線

優先順位 2：IP-FAX：統合防災 NW（地上回線）

優先順位 3：機構本部又は支援本部（敦賀事業本部など）の FAX：一般回線

優先順位 4：機構本部又は支援本部の IP-FAX：統合防災 NW（地上及び衛星回線）

以上